

スチール・カバー工法®シリーズ

スレート壁改修工法(間接固定工法)

ウォール・スライドイン工法

設計・施工マニュアル

(2024年 12月版)



before



after



NIPPON STEEL

日鉄鋼板株式会社

目次	1. 施工の準備	
	1-1.安全作業の心得	2
	2. 製品仕様	
	2-1.特長	2
	2-2.構成部材	2
	3. 設計・施工基準	
	3-1.設計基準	3
	3-2.既存小波スレート壁の調査と確認	4
	3-3.耐風基準	5
	4. 施工	
	小波スレート壁における不陸調整方法について	8
	外壁材：縦貼りの場合	9
	4-1.固定金具の設置パターン	9
	4-2.施工手順	10
	4-3.参考納まり図	12
	外壁材：横貼りの場合	14
	4-4.固定金具の設置パターン	14
	4-5.施工手順	15
	4-6.参考納まり図	16
	明かり採りの場合	18
	4-7.固定金具の設置パターン	18
	5. 技術資料	
	基準風速	19

●ご注意

「ウォール・スライドイン工法」は、既設の小波スレート外壁のフックボルトを利用して胴縁下地を新設し、これに軽量の金属製の角波、スパンドレル、サイディング等をカバー改修する工法です。

新設する外壁材の胴縁間隔は、既設スレートの胴縁間隔に依存する為、リブ波、丸小波等の剛性の低い外装材には適しません。

●お願い

この設計・施工マニュアルは、スレート壁改修工法「ウォール・スライドイン工法」の基本的な内容について説明しております。

特殊な条件で使用される場合には、弊社までご相談下さい。





また、本品には各社各様の工業所有権が多数出願登録されております。不用意な工法や部材の使用は、工業所有権の抵触問題に発展する恐れがあります。

「ウォール・スライドイン工法」をご使用される場合には、部材を含めてこの設計・施工のマニュアルに基づいて行って下さい。

1. 施工の準備

1-1 安全作業の心得

■安全のために、よくわかっていても再度チェックし、必ずお守り下さい。

<div><div></div><div>警告</div></div> 死亡または、重傷を負う可能性が想定されます			
<div><div>①正しい着装</div><div><p>外壁工事は高所作業です。作業時に支障のない身軽な作業服を着用し、保護具（ヘルメット、墜落制止用器具）を着装してください。</p><p>2m以上の高所作業では墜落制止用器具の着装が義務付けられています。</p></div></div>	<div><div>②異常気象時の判断</div><div><p>突風、つむじ風等の異常気象の発生が予報されている時は、材料が飛散して2次災害を起こす危険がありますので、工事を中止して下さい。</p></div></div>	<div><div>③上下同時作業の禁止</div><div><p>落下災害が起こらぬよう、上下の同時作業は避けて下さい。</p></div></div>	
<div><div></div><div>注意</div></div> 損害を負うまたは、物的損害が発生する可能性が想定されます			
<div><div>①毎日のミーティング</div><div><p>作業規律の徹底と、健康状態のチェック、および安全についての注意事項を確認して下さい。</p></div></div>	<div><div>②電動工具、一般工具の安全操作</div><div><p>安全に使用するために、工具の点検や水ぬれの際の漏電に注意して下さい。</p></div></div>	<div><div>③整理、整頓、標識の重視</div><div><p>整理、整頓、標識を重視し、公衆災害の防止措置に心がけて下さい。</p></div></div>	<div><div>④気象情報の重視</div><div><p>降雨、降雪、強風などの気象変化に対する情報にご注意下さい。</p></div></div>

※現場の実情に合わせて適切な安全作業の心得を作成し、実行して下さい。

2. 製品仕様

2-1 特長

1. 既存小波スレート壁に穴をあけずに施工可能！

既存フックボルトを利用し、専用金具を固定し下地を構成してゆくため、既存小波スレートにダメージを与えることはありません。※既存建物の状態によっては穴をあける場合があります。

2. たたき込み治具によるスムーズな固定！

既存フックボルトのワッシャー部にスライドさせ固定しますが、たたき込み治具を用いることによりスレートへの不要な打撃を抑え、小波スレートの損傷を防ぎます。スムーズに挿入できるため、作業性も向上します。

3. 工事中でも営業や操業が可能！

施工中もアスベストを含む粉塵等の建物内への飛散が少ない工法であるため、室内養生を少なくし、また建物内での業務も継続できる可能性があります。

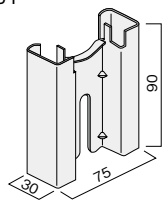
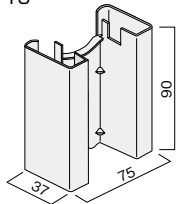
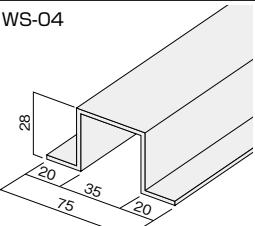
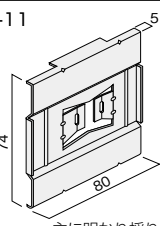
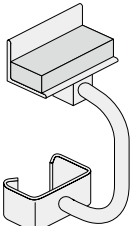
4. 既存フックボルトの切断作業が不要！

固定金具、下地部材を用いることで、既存フックボルトの余長分と干渉せず、面倒な切断作業は不要です。

5. 下地構成時に不陸調整が可能！

固定金具と固定金具(Hタイプ)を使用することにより、スレートの重なりによる不陸を吸収します。明かり採り部ではスレートとの高さが異なるため、高さ調整金具を用いて不陸を最小限に留めます。

2-2 構成部材

固定金具	固定金具 (Hタイプ)	ハット型金属銅縁	高さ調整金具 (5mm)	たたき込み治具
<div>WS-01</div>  <p>材質：亜鉛めっき鋼板 t = 1.6mm</p>	<div>WS-10</div>  <p>材質：亜鉛めっき鋼板 t = 1.6mm</p>	<div>WS-04</div>  <p>材質：亜鉛めっき鋼板 t = 1.2mm L = 3175mm</p>	<div>WS-11</div>  <p>主に明かり採り部で使用 材質：亜鉛めっき鋼板 t = 0.8mm</p>	<div>WS-50</div> 

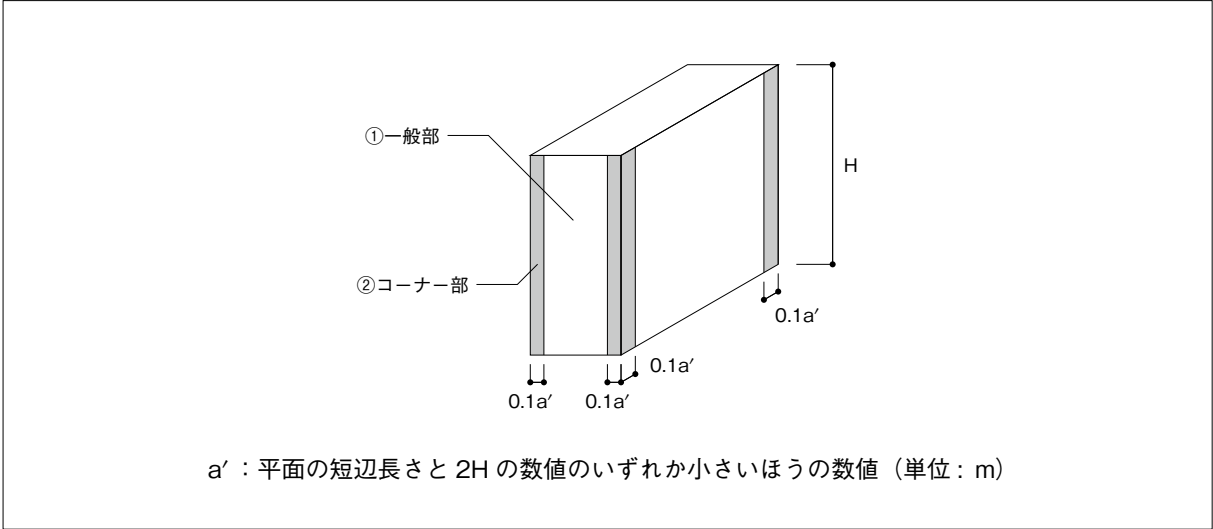
3. 設計・施工基準

3-1 設計基準

3-1-1 外壁の補強範囲（平成 12 年 5 月 31 日 建設省告示第 1458 号）

建築基準法により、外壁面の局部は風の影響が大きいいため、外装材施工時には補強の検討が必要です。

(1) 外壁の一般部・コーナー部の範囲



3-1-2 風圧力について

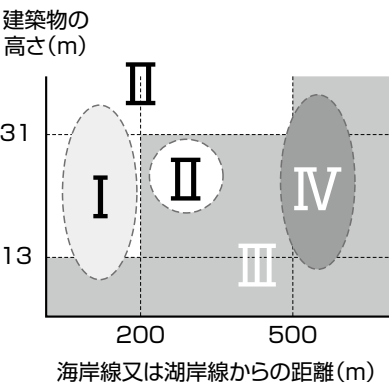
風圧力は建築基準法により、建物条件（高さ、立地条件（地表面粗度区分及び基準風速））から算定します。耐風圧性能を検討する際にご参照下さい。

(1) 地表面粗度区分（建築物の高さ、海岸からの距離により分類される。）

風圧力を算定する基準（地表面粗度区分）の合理化

（平成 12 年 建設省告示第 1454 号）【施行：令和 4 年 1 月 1 日】

	特定行政庁	海岸からの距離	建物高さ	地表面粗度区分
全ての区域	無指定	200m以下	$H > 13\text{m}$	Ⅱ
			$H \leq 13\text{m}$	Ⅲ
		200～500m	$H > 31\text{m}$	Ⅱ
			$H \leq 31\text{m}$	Ⅲ
	指定	下図の点線囲み		Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ



(2) 基準風速 (Vo [単位: m/s] 平成 12 年 建設省告示第 1454 号)

基準風速の一覧表は、P.19 をご参照ください。

3-2 既存小波スレート壁の調査と確認

⚠ 警告 事前調査の際は安全対策を充分行って下さい。

3-2-1 事前調査

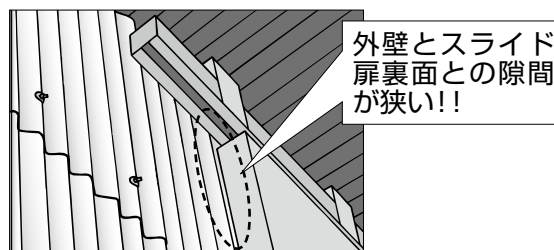
設計に当たっては事前に次のような項目についての調査・確認を行い、工法・型式をご選択下さい。施主および元請に対し、工事に支障が起きないように工事範囲の確認、工事計画、工事内容等について十分に打ち合わせをして下さい。

関連事項	調査項目
法規関連	<ul style="list-style-type: none">●建築基準法第2条の14、15項（主要構造部の一種以上について行う過半の修繕、または模様替）に該当する場合の同第6条確認申請の必要性についての所轄の建築指導課への確認。●「石綿障害予防規則等の一部を改正する省令」(令和2年7月1日公布)および「屋根及び外壁の改修に関する建築基準法上の取扱いについて」(令和6年2月8日付け国住指第355号)、「屋根及び外壁の改修に係る設計・施工上の留意事項について」(令和6年2月8日付け国住指第356号)等、最新情報もご確認ください。
構造関連	<ul style="list-style-type: none">●荷重増加による構造チェック。（約5～10kg/m²重量増）
既存壁構造及び胴縁について	<ul style="list-style-type: none">●既存フックボルトの種類、取り付け間隔、余調の確認。●胴縁の形状（材質は軽量形鋼ですか？熱間圧延の山形鋼または溝形鋼ですか？）、位置および通りの精度。●壁下地材補修の必要性。●木毛セメント板等下地の有無。●既存壁面の障害物の有無。（縦樋固定金具、窓、扉、看板、配線、支線、その他）
既存スレート及びフックボルトの劣化状況について	<ul style="list-style-type: none">●既存スレートの劣化程度（経過年数）。●フックボルトの劣化程度（室外側及び室内側）。 <p>※紡績工場等屋内において湿度が高い場合、薬品、腐食性ガスを発生する工場等の特殊な条件下でスレートが使用されている場合、室内側および室外側のフックボルトが著しく腐食している場合がありますのでご注意ください。</p>
各部の納まりについて	<ul style="list-style-type: none">●出隅、入隅、水切、窓、扉の納まり。

本工法は既存スレート壁の上に固定金具（高さ調整金具）、ハット型金属胴縁、外壁材を施工していくため、外壁の厚みが増加します。

出入口がスライド扉の場合、そのままでの施工は困難です。

〔ハンガーレールを移動する。またはシャッター化をお勧めします。〕



3-3 耐風基準

3-3-1 適用範囲について

ウォール・スライドイン工法は、既存のフックボルトを利用した間接固定工法のため、既存胴縁形状により強度に違いがあります。それを踏まえ、風に対する強度の確認が必要になります。よって以下の手順に沿って、適用可否についてご確認ください。

確認手順

①事前確認事項

●胴縁形状及びフックボルトの種類

●建物高さ
(1m未満は切り上げた数値として下さい。)

●基準風速 (P.19～参照)

●胴縁間隔

➡

②工法判定

適用範囲表から該当区分
■ □ ⊠ のどれに該当しているかを確認し、使用条件を決定して下さい。

(1) 適用範囲表

適用範囲表は下記の条件にて算定しています。
〈建物条件〉 既存胴縁ピッチ：985mm
幅方向取付間隔：（一般部 635mm）（コーナー部 318mm）

アングル レ型フックボルト		建物高さ (m)	地表面粗度区分Ⅲ 基準風速Vo(m/S)						地表面粗度区分Ⅱ 基準風速Vo(m/S)														
			30	32	34	36	38	40	30	32	34	36	38	40									
			5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
		5																					
		6																					
		7																					
		8																					
		9																					
		10																					
		11																					
		12																					
		13																					
		14																					
		15																					
		16																					
		17																					
		18																					
		19																					
		20																					
		21																					
		22																					
		23																					
		24																					
		25																					
C型鋼 レ型フックボルト		5																					
		6																					
		7																					
		8																					
		9																					
		10																					
		11																					
		12																					
		13																					
		14																					
		15																					
		16																					
		17																					
		18																					
		19																					
		20																					
		21																					
		22																					
		23																					
		24																					
		25																					

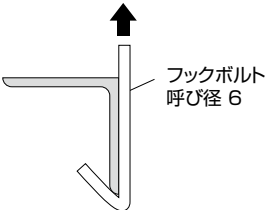
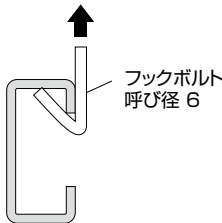
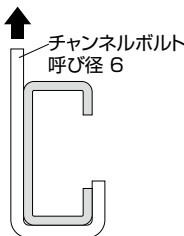
■ 上記条件で使用可能 □ 全ボルトを利用し使用可能

※フックボルト強度、固定金具強度については安全率 2 倍で算定しています。
※上記適用範囲表は、建築基準法により外壁にかかる風荷重を算定し、圧縮強度並びに各下地材の引抜強度と強度比較を行ない、適用範囲を算定しています。
※上記以外の時はご相談下さい。

5

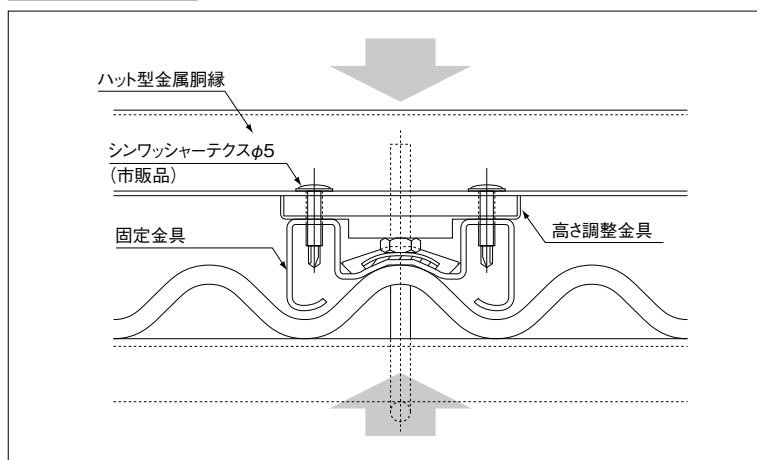
3-3-2 各部の強度

(1) 既存胴縁に対する固定ボルトの引抜強度

引張強度試験						
固定ボルトと胴縁の種類	1		2		3【参考】	
						
	胴縁:アングル L-50×50×4		胴縁:C型钢 100×50×20×2.3		胴縁:C型钢 100×50×20×2.3	
	サンプルNo.	引抜強度 N(kgf)	サンプルNo.	引抜強度 N(kgf)	サンプルNo.	引抜強度 N(kgf)
	1	3287(335)	1	2125(216)	1	939(96)
試験結果	2	3362(343)	2	2112(215)	2	987(101)
	3	3075(313)	3	2162(220)	3	960(98)
	平均値	3241(330)	平均値	2133(217)	平均値	962(98)

(2) 既存フックボルトに対する強度

圧縮強度試験

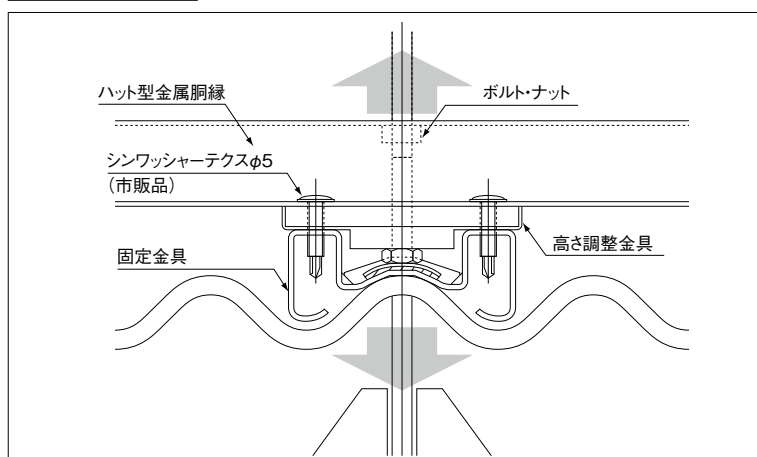


試験体

下地部	既存フックボルト呼び径 6 (新品)
固定部	固定金具 ハット型金属胴縁 (シンワッシャーテクス2本止め)

	圧縮強度 (N)	破壊状況
1	4400	スレート割れ破壊
2	5500	
3	5600	
平均	5166	

引張強度試験



試験体

下地部	既存フックボルト呼び径 6 (新品)
固定部	固定金具 ハット型金属胴縁 (シンワッシャーテクス2本止め)

ハット型金属胴縁 2 本止

	引張強度 (N)	破壊状況
1	4416	フックボルトワッシャー変形による金具外れ
2	4302	
3	3831	
平均	4183	

各部の強度については試験値であり保証値ではありません。

3-3-3 外装材の強度 参考

一般的な金属外装材（角波）が使用可能です。

△ 注意 リブ波、丸小波等の剛性の低い形状は適しません。
 98N/m^2 (10kg/m^2) を超える外装材の使用は避けて下さい。

強度の検証

最大風荷重の算出

P.6 3-3-1 適用範囲の条件より

地表面粗度区分：Ⅱ地域

基準風速 V_0 : 40m/s

建物高さ : 25m



正圧 : $3533\text{N} \Rightarrow (360\text{kgf/m}^2)$

負圧（一般部） : $-2263\text{N} \Rightarrow (-231\text{kgf/m}^2)$

負圧（コーナ一部） : $-2766\text{N} \Rightarrow (-282\text{kgf/m}^2)$

適用範囲と同条件による強度試験

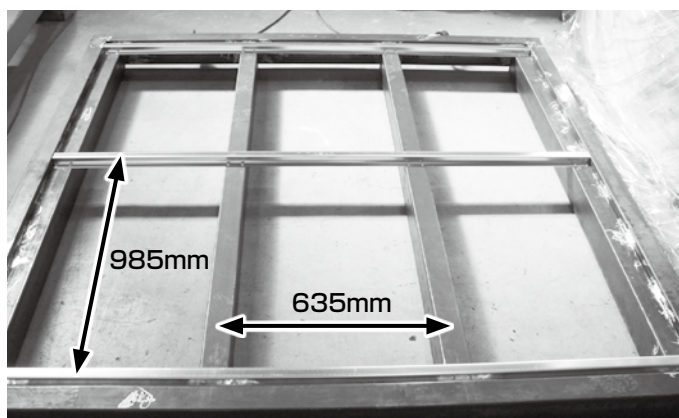
試験体仕様

胴縁間隔 : 985mm

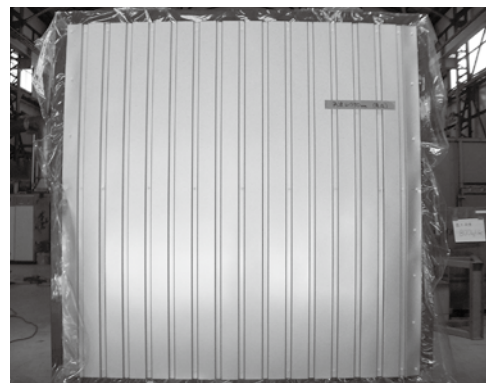
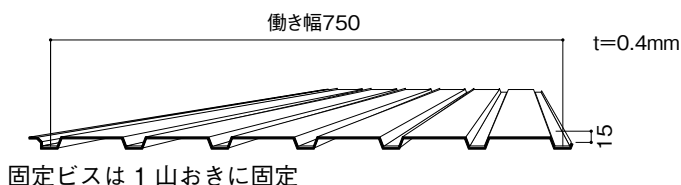
固定金具設置間隔 : 635mm

ハット型胴縁板厚 : 1.2mm

外壁材固定ビス : $\phi 5$ テクス

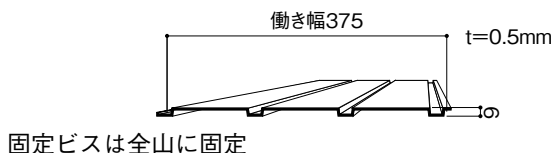


①全幅角波形状



結 果	正圧・負圧共に最大風荷重時に有害な変形は認められない。			
破壊荷重	正圧	5390N/m^2	負圧	-4410N/m^2

②半裁角波形状



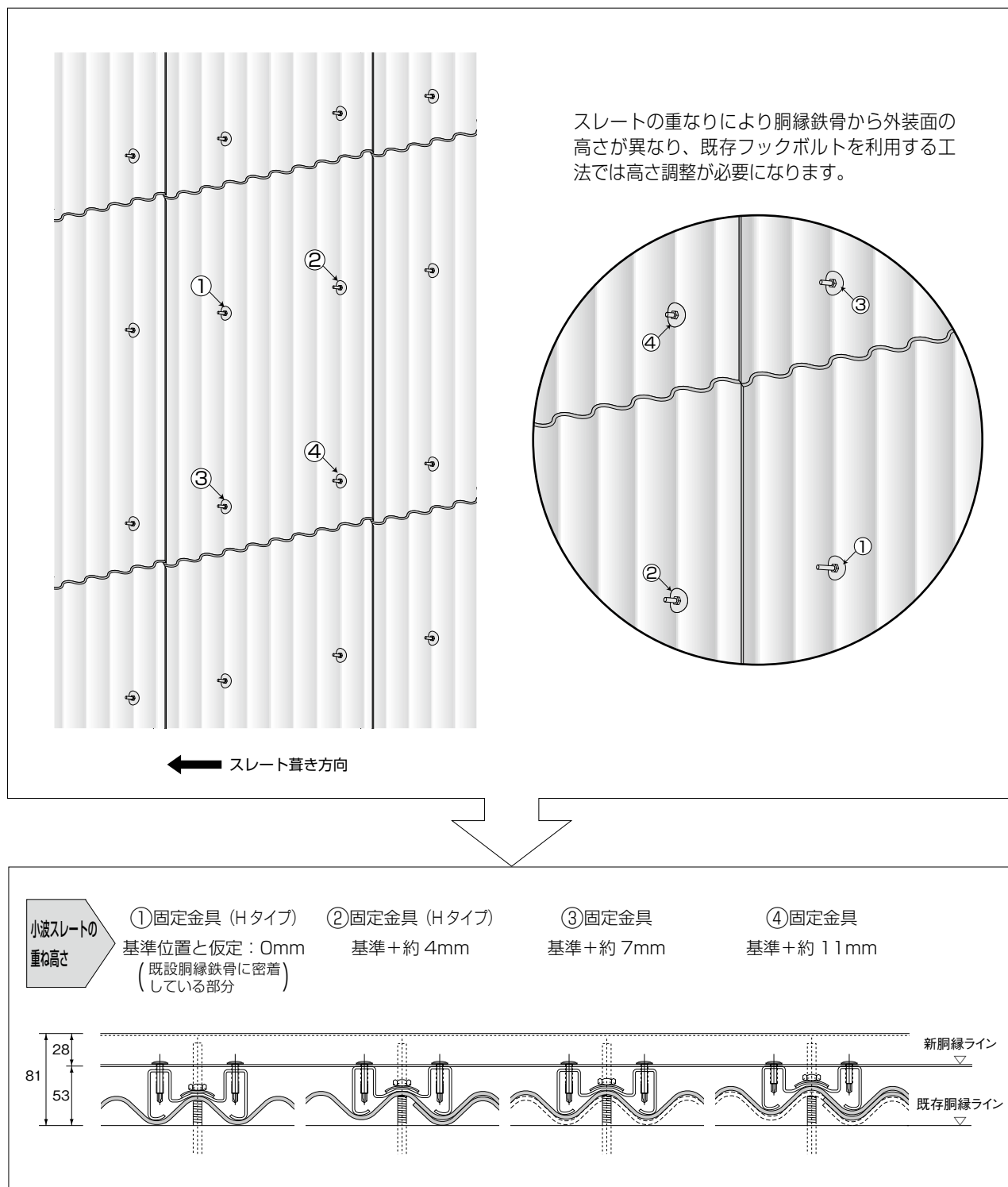
結 果	正圧・負圧共に最大風荷重時に有害な変形は認められない。			
破壊荷重	正圧	4410N/m^2	負圧	-5390N/m^2

※破壊荷重は試験値であり、保証値ではありません。

本工法は、既存スレートの胴縁を利用し、そのピッチに合わせて金属製外装材を取り付けるものです。
 その為、特に新設する外装材を縦貼りする場合は、新築時に比べ外装材の固定間隔が広がる可能性が高く、リブ波、丸小波等の剛性の低い外装材には適しません。

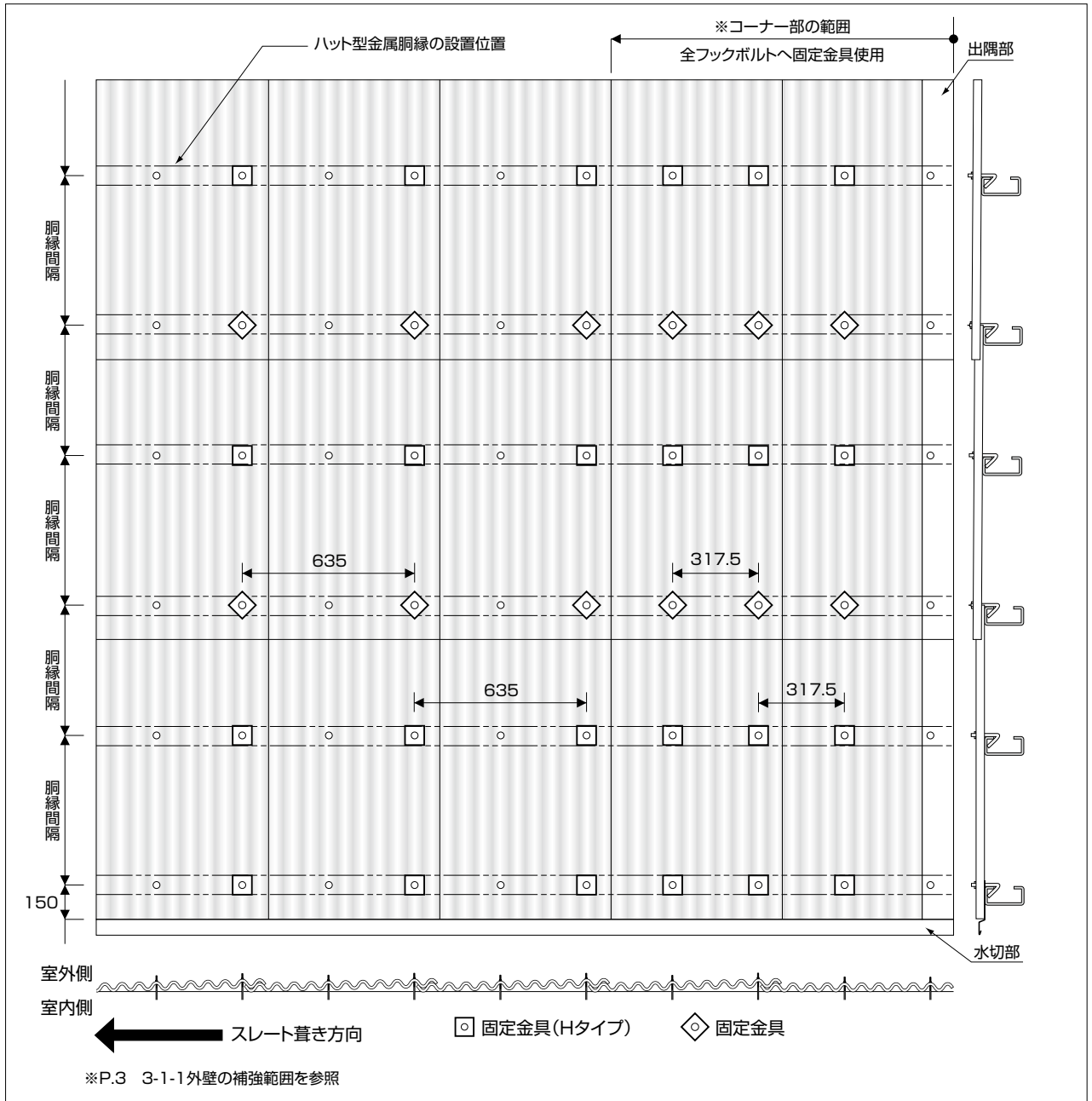
4. 施工

小波スレート壁における不陸調整方法について

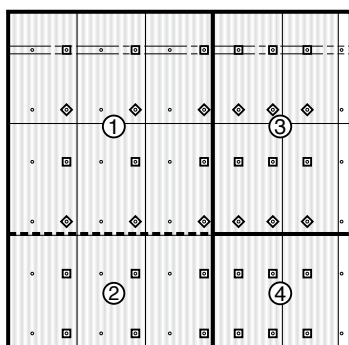


外壁材：縦貼りの場合

4-1 固定金具の設置パターン



使用金具の積算（横胴縁）



スレート 1 枚に使用する金具の組合わせ

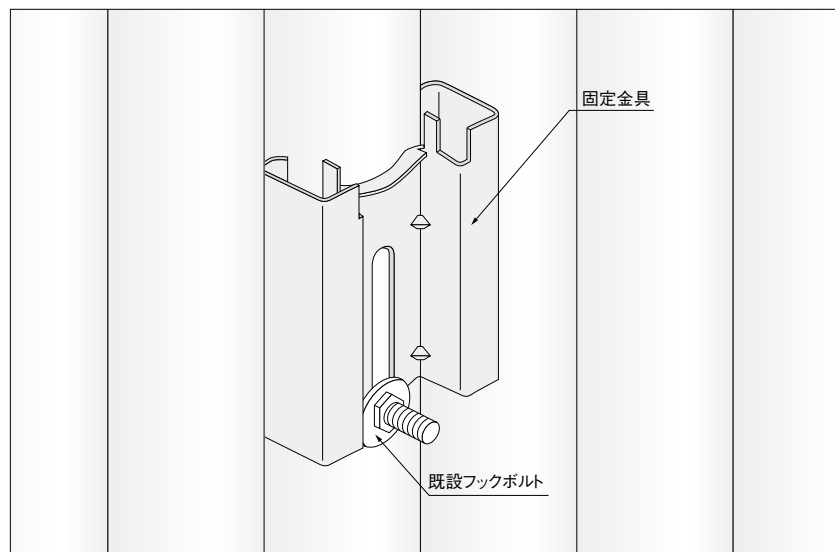
	固定金具	固定金具 Hタイプ	高さ調整金具
①	1	1	—
②	—	2	—
③	2	2	—
④	—	4	—

4-2 施工手順

(1) 固定金具の仮置き

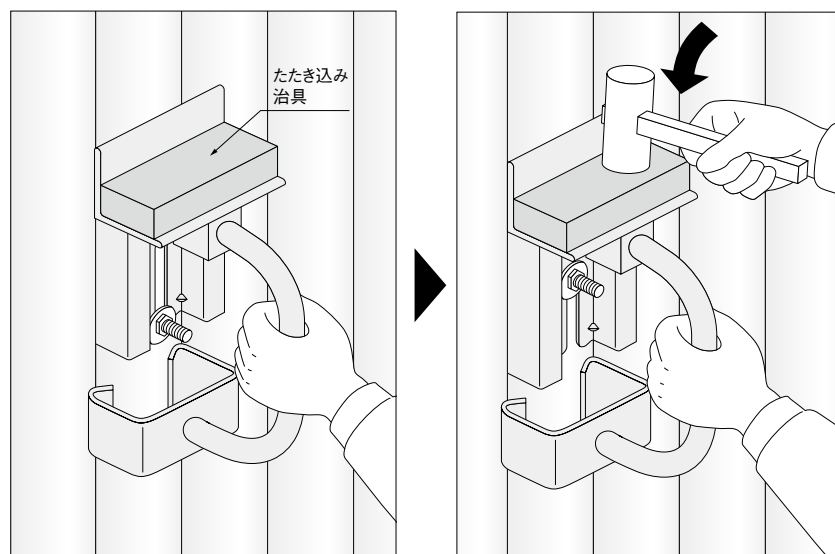
既設フックボルトのワッシャー下パッキン部に固定金具を右図のようにセットします。

先端はテーパ加工されています。パッキン下にセットして下さい。



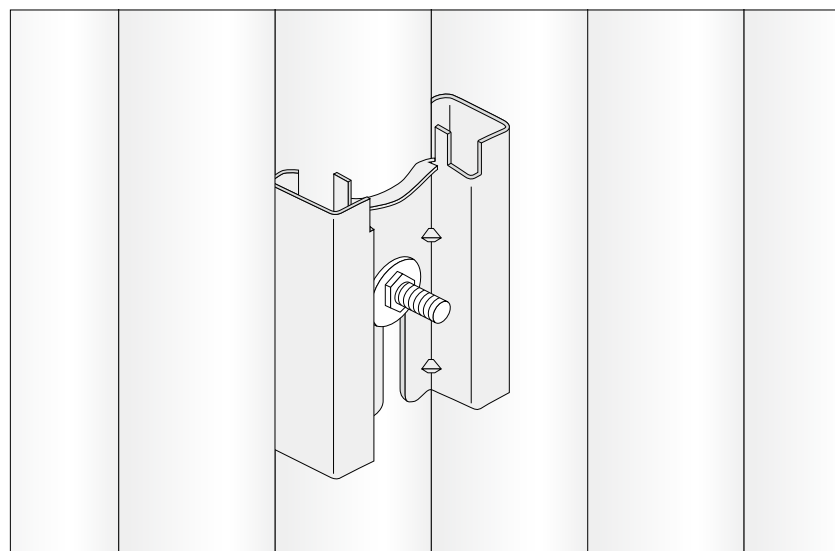
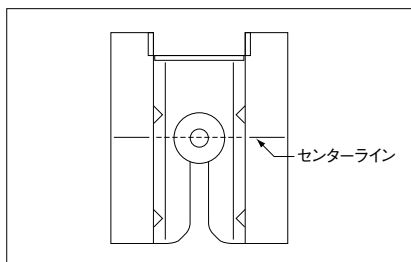
(2) たたき込み治具の設置

たたき込み治具を固定金具にセットします。確実にセットされていることを確認後、たたき込み治具の上部をハンマー等で、フックボルトが固定金具の中央にくるまでたたき込んで下さい。



(3) 固定金具の位置確認

固定金具の中央にフックボルトがある事を確認して下さい。



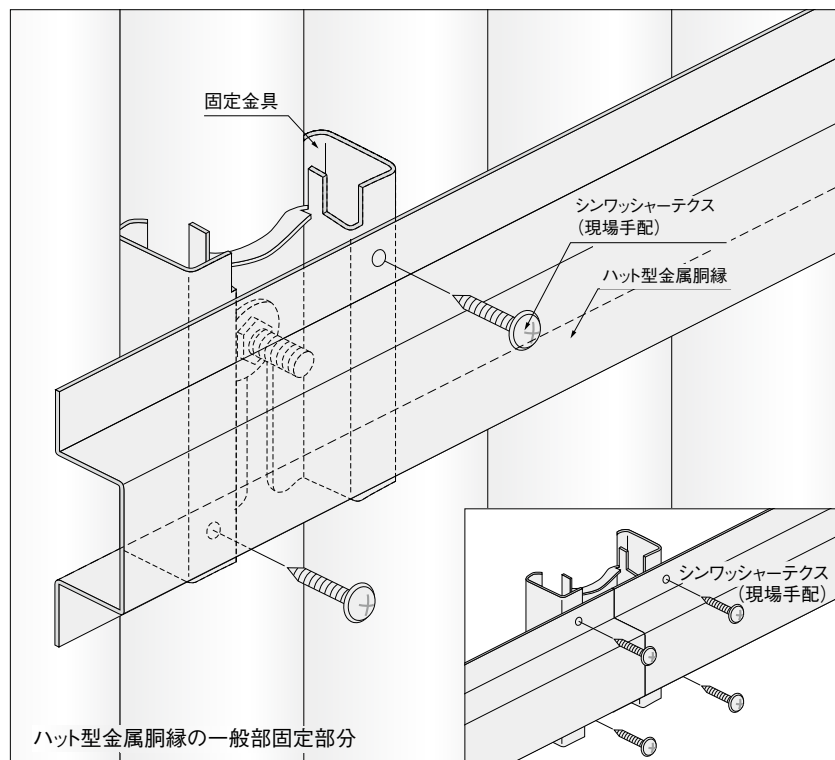
(4) ハット型金属胴縁の固定

シンワッシャーテクスを用いて、ハット型金属胴縁を基本対角 2 本により、固定金具に止め付けます。

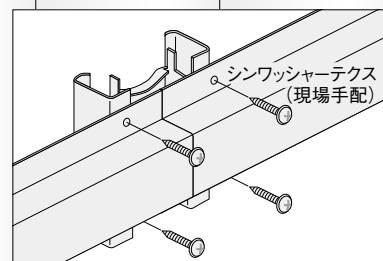
シンワッシャーテクスのサイズ(現場手配)

固定部位	サイズ
固定金具	φ 5、L=25 以下

※ハット型金属胴縁端部は固定金具上で継いで下さい。(右下図参照)

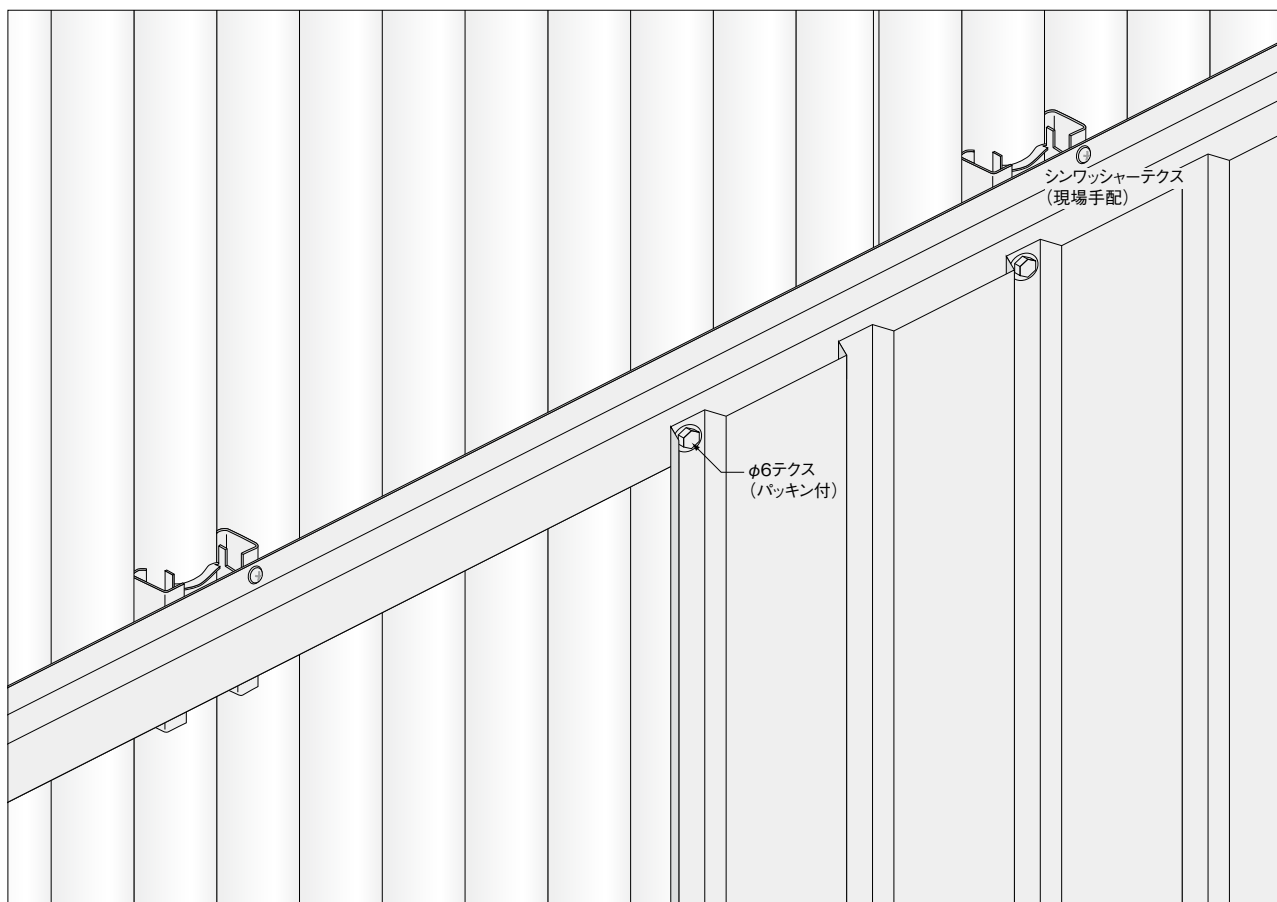


ハット型金属胴縁の一般部固定部分



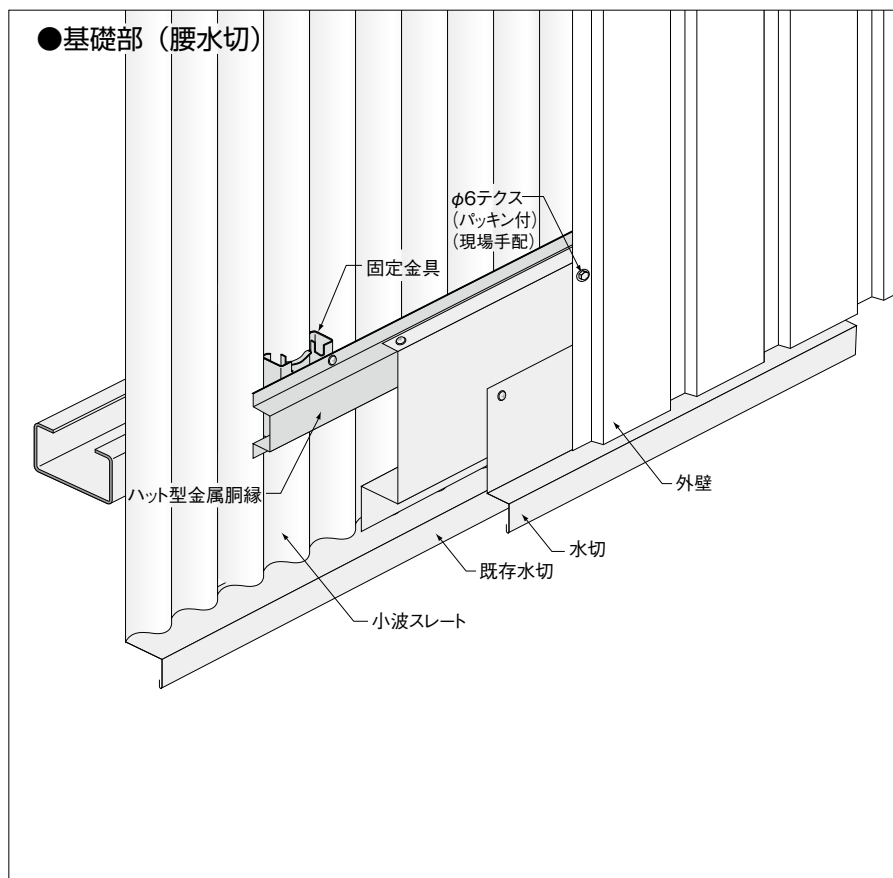
ハット型金属胴縁の継ぎ部分

(5) 外壁材の固定

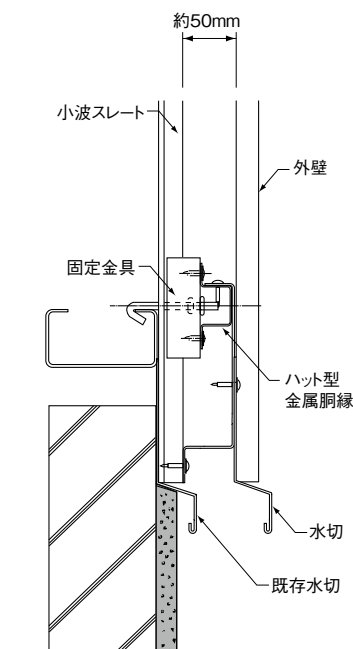


4-3 参考納まり図

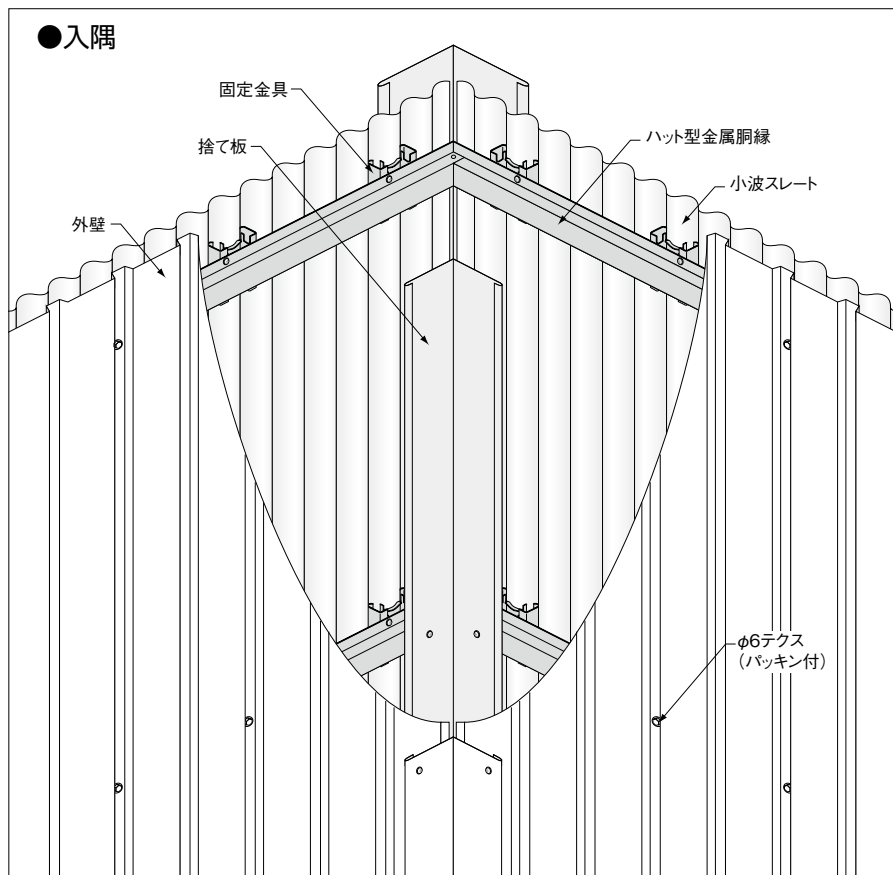
●基礎部（腰水切）



断面図

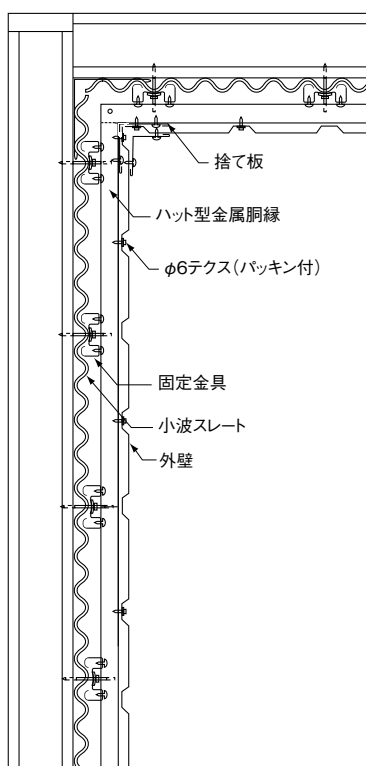


●入隅

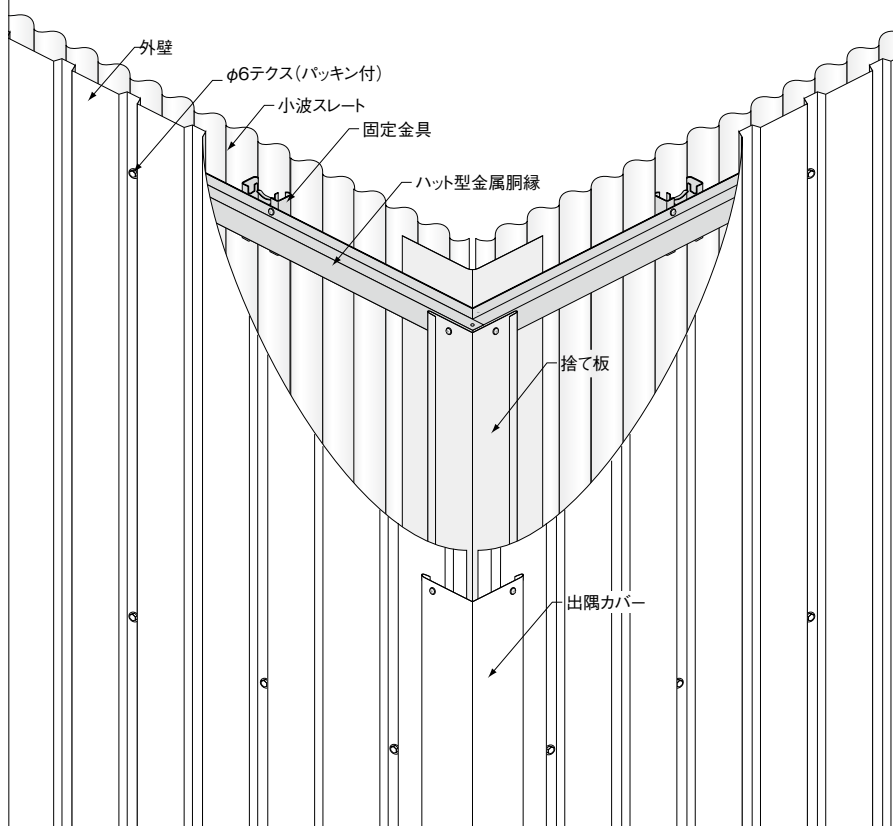


断面図

※ハット型金属胴縁は、固定金具上で継いで下さい。

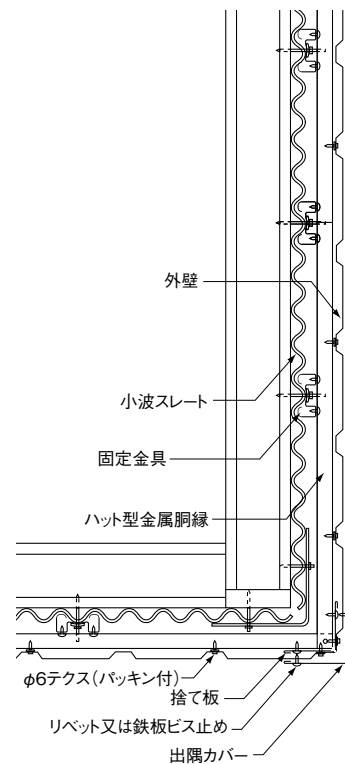


●出隅

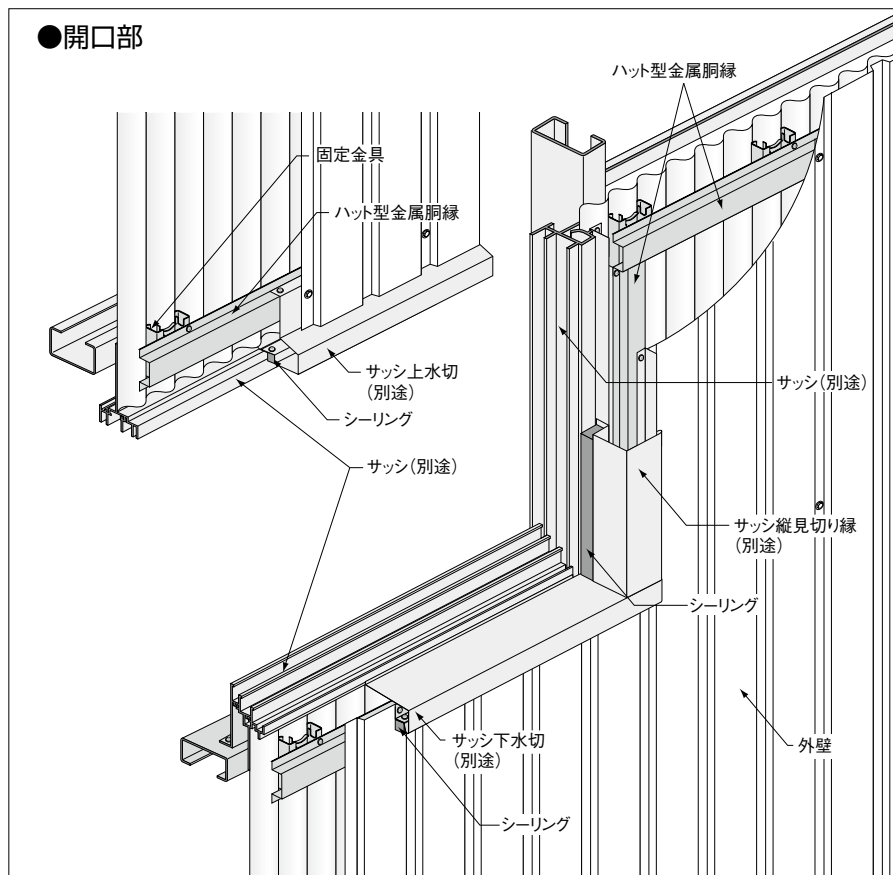


断面図

※ハット型金属胴縁は、固定金具上で継いで下さい。

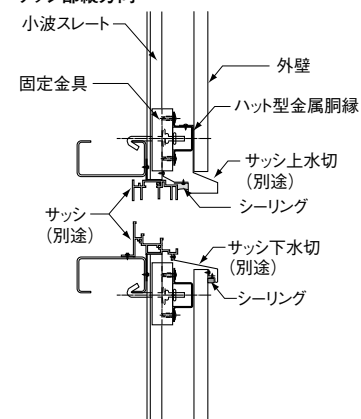


●開口部

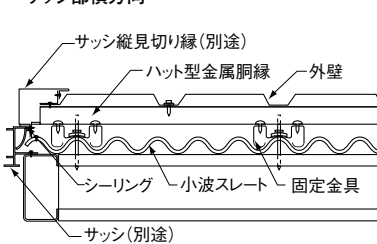


断面図

●サッシ部縦方向

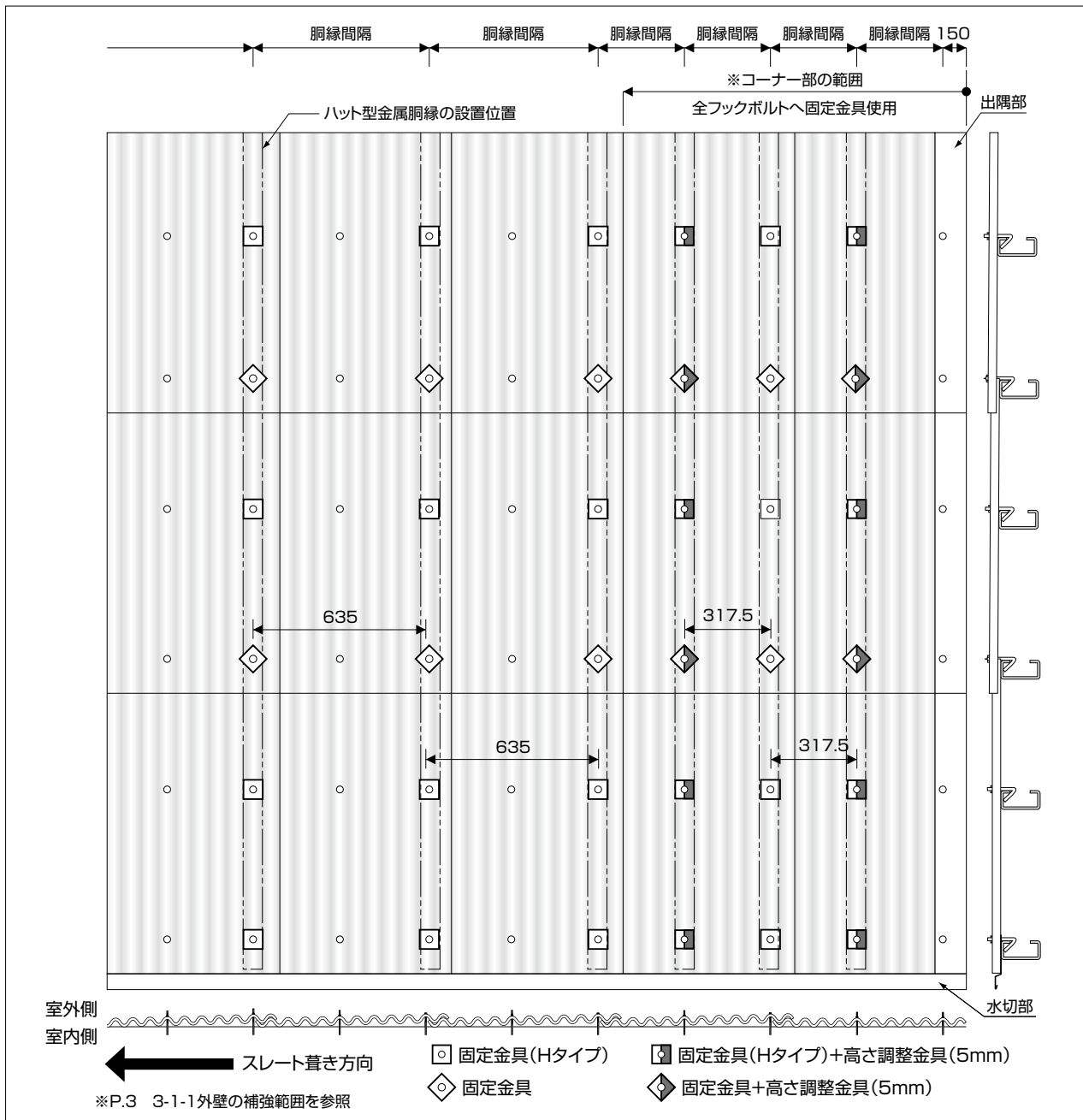


●サッシ部横方向



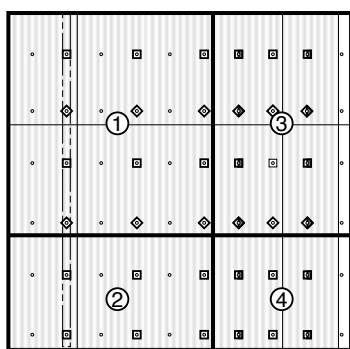
外壁材：横貼りの場合

4-4 固定金具の設置パターン



※縦方向で既存フックボルトが同じ山の位置であることを確認して下さい。
 ※縦方向で固定金具の位置が異なると胴縁を固定することができません。

使用金具の積算（縦胴縁）



スレート 1 枚に使用する金具の組み合わせ

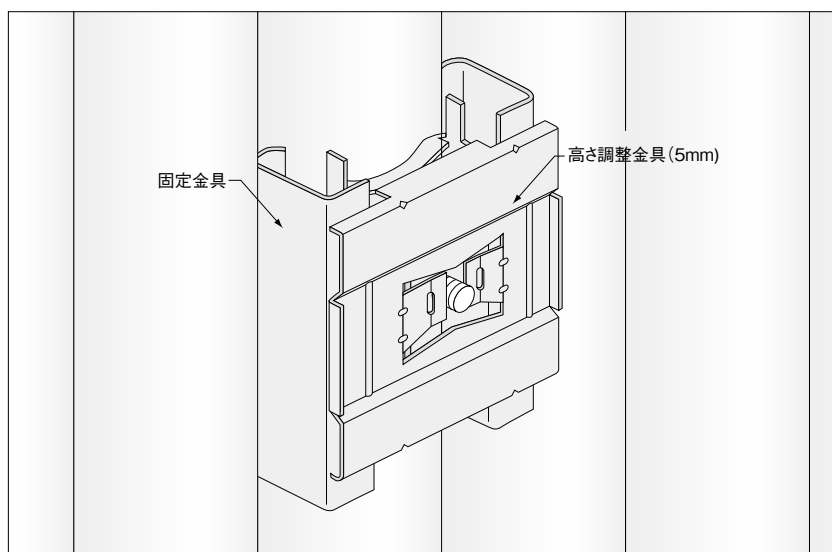
	固定金具	固定金具 Hタイプ	高さ調整金具
①	1	1	—
②	—	2	—
③	2	2	2
④	—	4	2

4-5 施工手順

※固定金具の施工は P.10 をご参照下さい。

(1) 高さ調整金具の設置

(高さ調整金具は隅角部のみ)
フックボルトに高さ調整金具中央部分を差し込みます。
向きは右図のように取り付けて下さい。
(フックボルトの余長がない場合はテープ等で仮固定しておいて下さい)



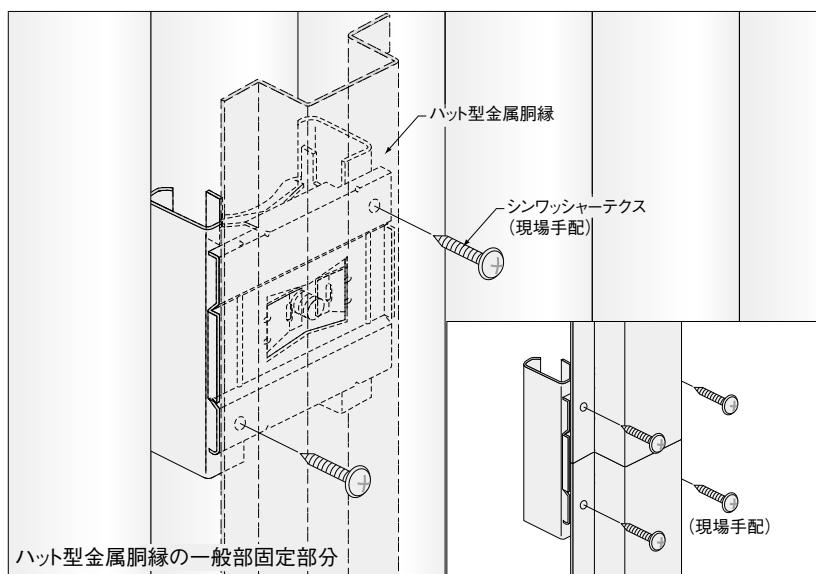
(2) ハット型金属胴縁の固定

右図のようにハット型金属胴縁をセットします。

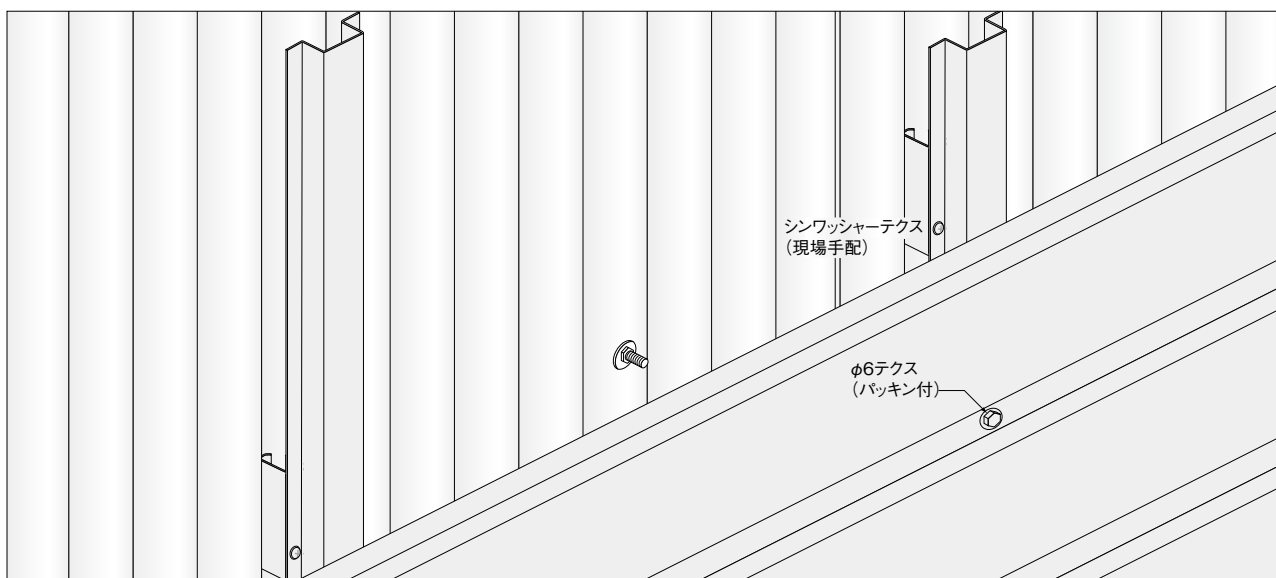
シンワッシャーテックスのサイズ(現場手配)

固定部位	サイズ
固定金具	φ5、L=25以下
固定金具+高さ調整金具1枚	φ5、L=19~25以下

※ハット型金属胴縁端部は固定金具上で継いで下さい。(右下図参照)

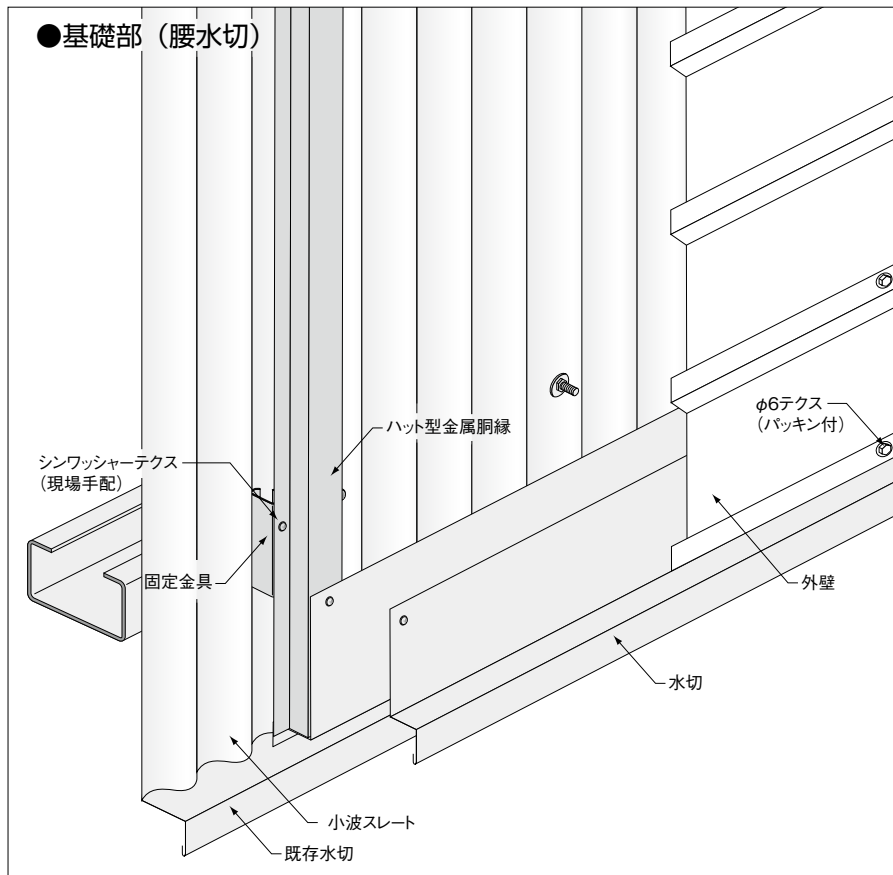


(3) 外壁材の固定

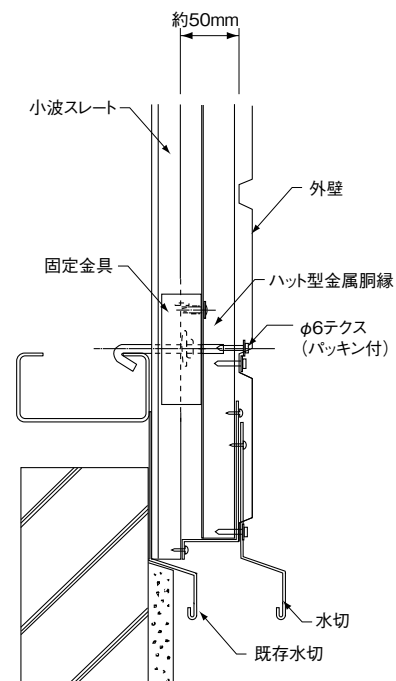


4-6 参考納まり図

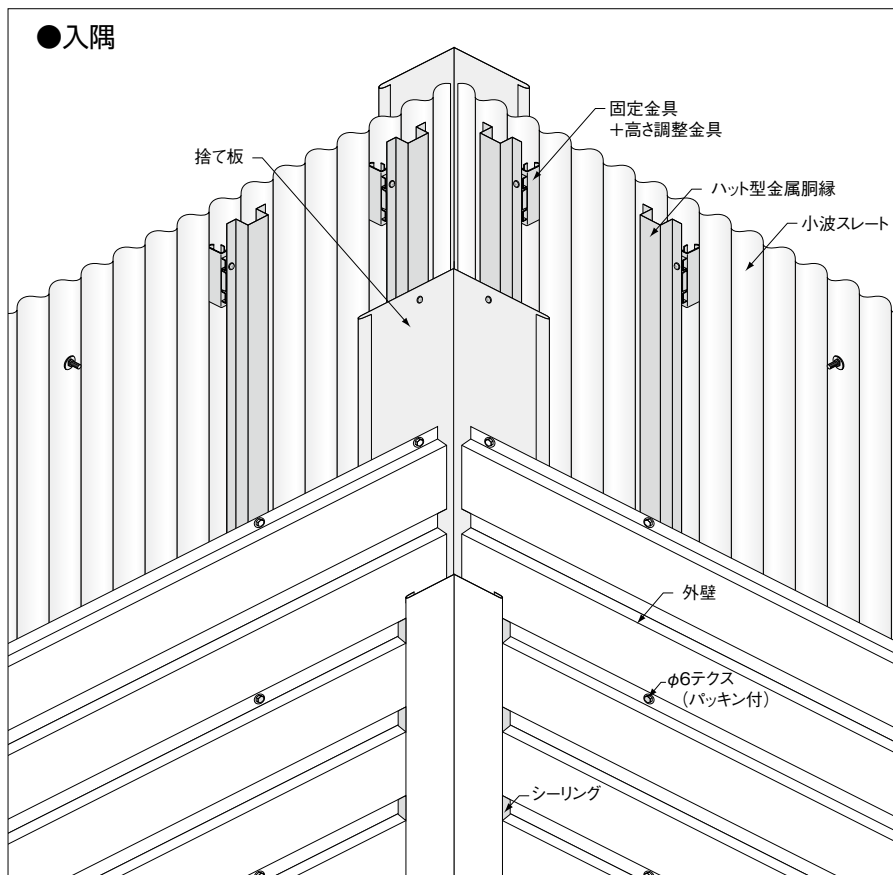
●基礎部（腰水切）



断面図

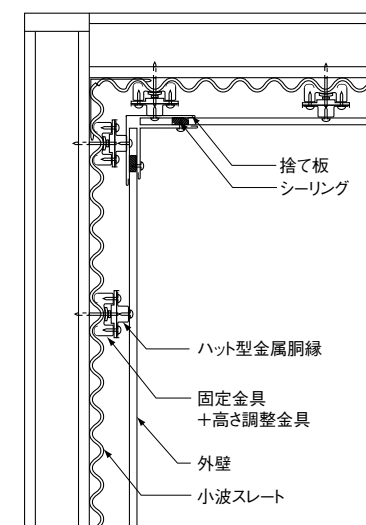


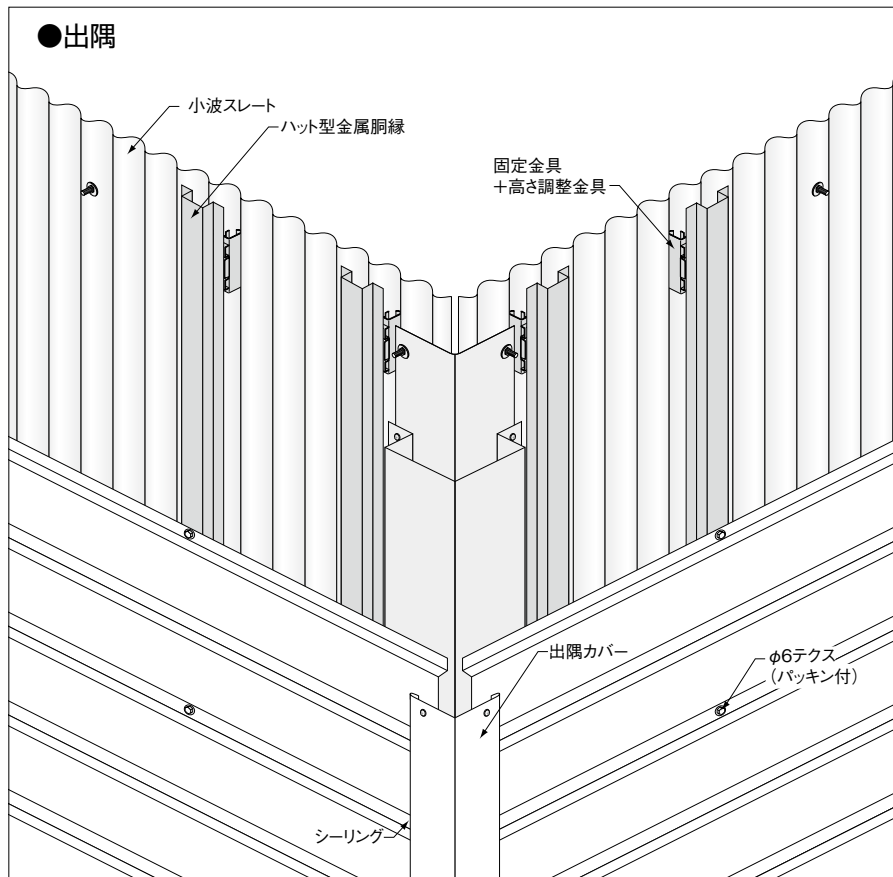
●入隅



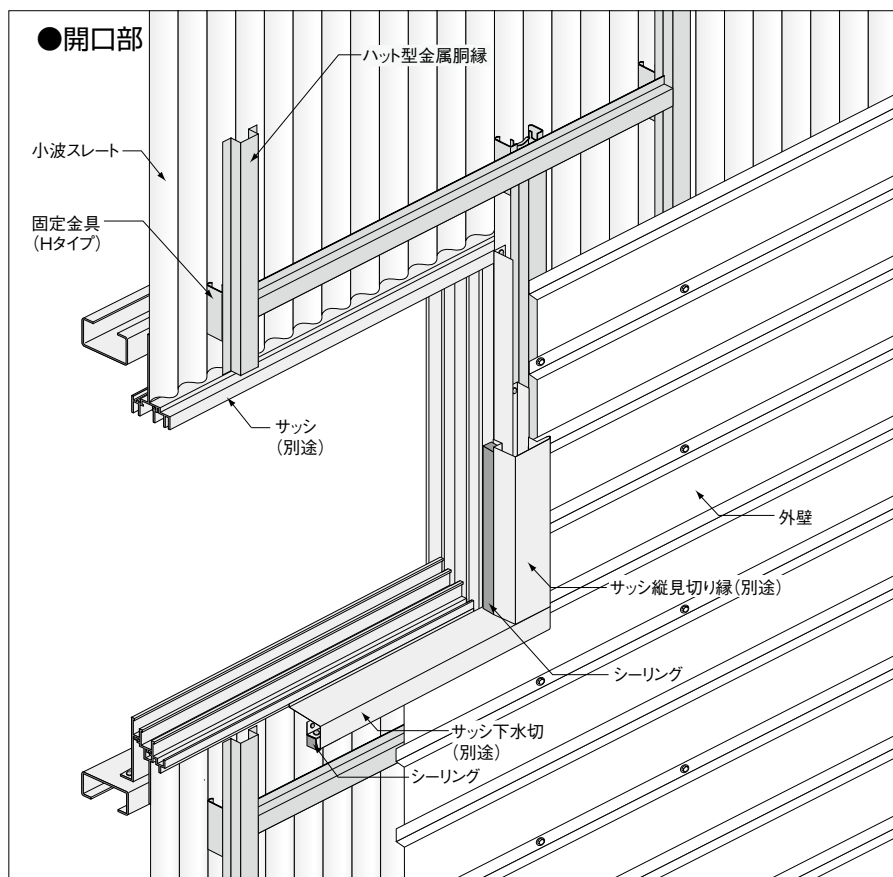
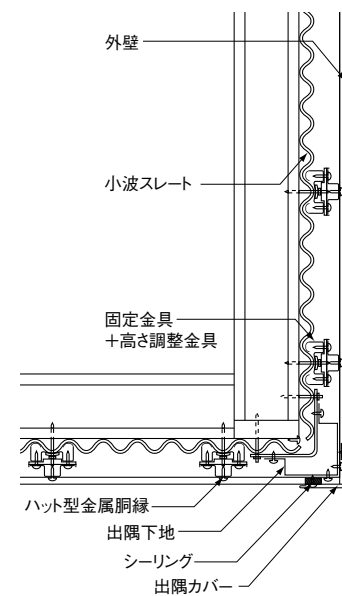
断面図

※ハット型金属胴縁は、固定金具上で継いで下さい。



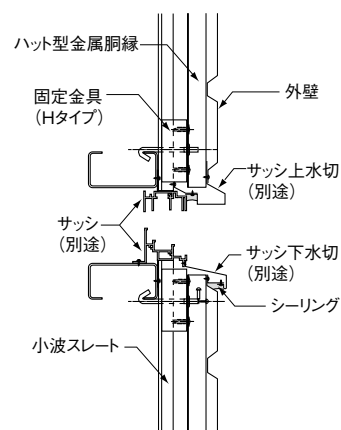


断面図

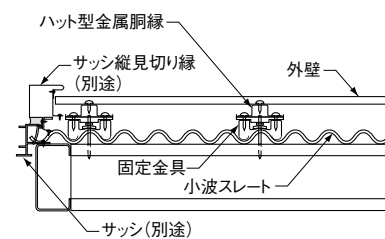


断面図

●サッシ部縦方向

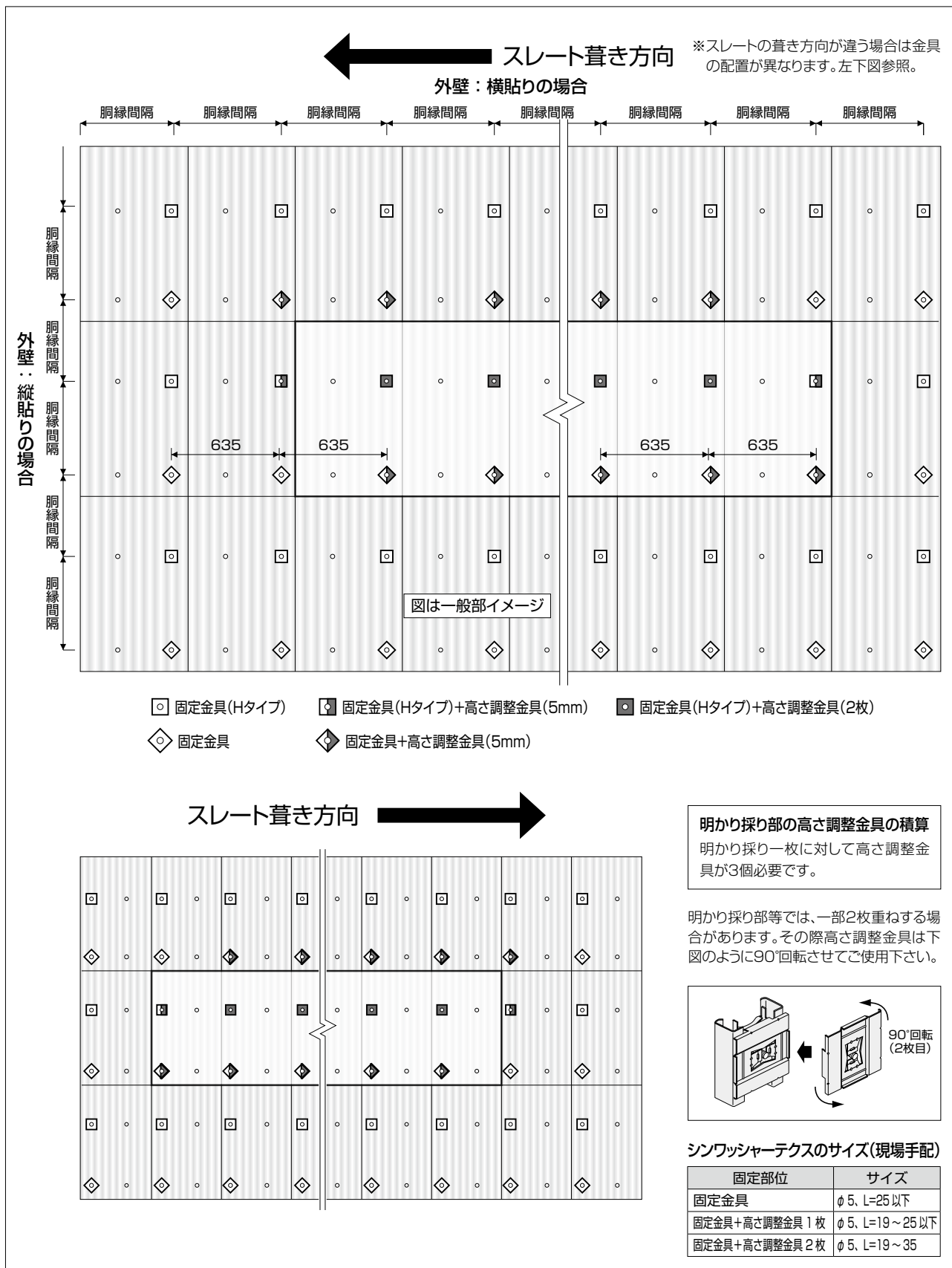


●サッシ部横方向



明かり採りの場合

4-7 固定金具の設置パターン



5. 技術資料

基準風速（Vo[単位:m/s] 平成12年5月31日 建設省告示第1454号）

[北海道]

都道府県名	Vo	地 方
北 海 道	30	下記以外の全域
	32	札幌市 小樽市 網走市 留萌市 稚内市 江別市 紋別市 名寄市 千歳市 恵庭市 北広島市 石狩市 石狩郡 厚田郡 浜益郡 空知郡(南幌町) 夕張郡(由仁町 長沼町) 上川郡(風連町 下川町) 中川郡(美深町 音威子府村 中川町) 増毛郡 留萌郡 苫前郡 天塩郡 宗谷郡 枝幸郡 礼文郡 利尻郡 網走郡(東藻琴村 女満別町 美幌町) 斜里郡(清里町 小清水町) 常呂郡(端野町 佐呂間町 常呂町) 紋別郡(上湧別町 湧別町 興部町 西興部村 雄部町) 勇払郡(追分町 穂別町) 沙流郡(平取町) 新冠郡 静内郡 三石郡 浦河郡 様似郡 幌泉郡 厚岸郡(厚岸町) 川上郡
	34	函館市 室蘭市 苫小牧市 根室市 登別市 伊達市 松前郡 上磯郡 亀田郡 芽部郡 斜里郡(斜里町) 虻田郡 岩内郡(共和町) 積丹郡 古平郡 余市郡 有珠郡 白老郡 勇払郡(早来町 厚真町 鵲川町) 沙流郡(門別町) 厚岸郡(浜中町) 野付郡 標津郡 目梨郡
	36	山越郡 松山郡 爾志郡 久遠郡 奥尻郡 瀬棚郡 島牧郡 寿都郡 岩内郡(岩内町) 磯谷郡 古宇郡

[東 北]

青 森	34	全域
岩 手	30	下記以外の全域
	32	久慈市 岩手郡(葛巻町) 下閉伊郡(田野畑村 普代村) 九戸郡(野田村 山形村) 二戸郡
	34	二戸市 九戸郡(軽米町 種市町 大野村 九戸村)
宮 城	30	全域
秋 田	30	下記以外の全域
	32	秋田市 大館市 本荘市 鹿角市 鹿角郡 北秋田郡(鷹巣町 比内町 合川町 上小阿仁村) 南秋田郡(五城目町 昭和町 八郎潟町 飯田川町 天王町 井川町) 由利郡(仁賀保町 金浦町 象潟町 岩城町 西目町)
	34	能代市 男鹿市 北秋田郡(田代町) 山本郡 南秋田郡(若美町 大潟村)
山 形	30	下記以外の全域
	32	鶴岡市 酒田市 西田川郡 飽海郡(遊佐町)
福 島	30	全域

[関 東]

茨 城	30	下記以外の全域
	32	水戸市 下妻市 ひたちなか市 東茨城郡(内原町) 西茨城郡(友部町 岩間町) 新治郡(八郷町) 真壁郡(明野町 真壁町) 結城郡 猿島郡(五霞町 猿島町 境町)
	34	土浦市 石岡市 龍ヶ崎市 水海道市 取手市 岩井市 牛久市 つくば市 東茨城郡(茨城町 小川町 美野里町 大洗町) 鹿島郡(旭村 鉾田町 大洋村) 行方郡(麻生町 北浦町 玉造町) 稲敷郡 新治郡(霞ヶ浦町 玉里村 千代田町 新治村) 筑波郡 北相馬郡
	36	鹿嶋市 鹿島郡(神栖町 波崎町) 行方郡(牛堀町 潮来町)
栃 木	30	全域
群 馬	30	全域
埼 玉	30	下記以外の全域
	32	川越市 大宮市 所沢市 狭山市 上尾市 与野市 入間市 桶川市 久喜市 富士見市 上福岡市 蓮田市 幸手市 北足立郡(伊奈町) 入間郡(大井町 三芳町) 南埼玉郡 北葛飾郡(栗橋町 鷺宮町 杉戸町)
	34	川口市 浦和市 岩槻市 春日部市 草加市 越谷市 蕨市 戸田市 鳩ヶ谷市 朝霞市 志木市 和光市 新座市 八潮市 三郷市 吉川市 北葛飾郡(松伏町 庄和町)
千 葉	34	市川市 船橋市 松戸市 野田市 柏市 流山市 八千代市 我孫子市 鎌ヶ谷市 浦安市 印西市 東葛飾郡 印旛郡(白井町)
	36	千葉市 佐原市 成田市 佐倉市 習志野市 四街道市 八街市 印旛郡(酒々井町 富里町、印旛村 本埜村、栄町) 香取郡 山武郡(山武町 芝山町)
	38	銚子市 館山市 木更津市 茂原市 東金市 八日市場市 旭市 勝浦市 市原市 鴨川市 君津市 富津市 袖ヶ浦市 海上郡 匝瑳郡 山武郡(大網白里町 九十九里町 成東町 蓮沼村 松尾町 横芝町) 長生郡 夷隅郡 安房郡

[関 東]

都道府県名	Vo	地 方
東 京	30	下記以外の地域
	32	八王子市 立川市 昭島市 日野市 東村山市 福生市 東大和市 武蔵村山市 羽村市 あきる野市 西多摩郡(瑞穂町)
	34	23区 武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 町田市 小金井市 小平市 国分寺市 国立市 田無市 保谷市 狛江市 清瀬市 東久留米市 多摩市 稲城市
	38	大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村
	42	八丈町 青ヶ島村 小笠原村
神 奈 川	32	足柄上郡(山北町) 津久井郡(津久井町 相模湖町 藤野町)
	34	横浜市 川崎市 平塚市 鎌倉市 藤沢市 小田原市 茅ヶ崎市 相模原市 秦野市 厚木市 大和市 伊勢原市 海老名市 座間市 南足柄市 綾瀬市 高座郡 中郡 足柄上郡(中井町 大井町 松田町 開成町) 足柄下郡 愛甲郡 津久井郡(城山町)
	36	横須賀市 逗子市 三浦市 三浦郡

[甲信越]

新 潟	30	下記以外の全域
	32	両津市 佐渡郡 岩船郡(山北町 粟島浦村)
山 梨	30	下記以外の全域
	32	富士吉田市 南巨摩郡(南部町 富沢町) 南都留郡(秋山村 道志村 忍野村 山中湖村 鳴沢村)
長 野	30	全域

[北 陸]

富 山	30	全域
石 川	30	全域
福 井	30	下記以外の全域
	32	敦賀市 小浜市 三方郡 遠敷郡 大飯郡

[東 海]

岐 阜	30	下記以外の全域
	32	多治見市 関市 美濃市 美濃加茂市 各務原市 可児市 揖斐郡(藤橋村 坂内村) 本巣郡(根尾村) 山県郡 武儀郡(洞戸村 武芸川町) 加茂郡(坂祝町 富加町)
	34	岐阜市 大垣市 羽島市 羽島郡 海津郡 養老郡 不破郡 安八郡 揖斐郡(揖斐川町 谷汲村 大野町 池田町 春日村 久瀬村) 本巣郡(北方町 本巣町 穂積町 巣南町 真正町 糸貫町)
静 岡	32	静岡市 浜松市 清水市 富士宮市 島田市 磐田市 焼津市 掛川市 藤枝市 袋井市 湖西市 富士郡 庵原郡 志太郡 榛原郡(御前崎町 相良町 榛原町 吉田町 金谷町) 小笠郡 磐田郡(浅羽町 福田町 竜洋町 豊田町) 浜名郡 引佐郡(細江町 三ヶ日町)
	34	沼津市 熱海市 三島市 富士市 御殿場市 裾野市 賀茂郡(松崎町 西伊豆町 賀茂村) 田方郡 駿東郡
	36	伊東市 下田市 賀茂郡(東伊豆町 河津町 南伊豆町)
愛 知	30	下記以外の全域
	32	豊橋市 瀬戸市 春日井市 豊川市 豊田市 小牧市 犬山市 尾張旭市 日進市 愛知郡 丹羽郡 額田郡(額田町) 宝飯郡 西加茂郡(三好町)
	34	名古屋市 岡崎市 一宮市 半田市 津島市 碧南市 刈谷市 安城市 西尾市 蒲郡市 常滑市 江南市 尾西市 稲沢市 東海市 大府市 知多市 知立市 高浜市 岩倉市 豊明市 西春日井郡 葉栗郡 中島郡 海部郡 知多郡 幡豆郡 額田郡(幸田町) 渥美郡
三 重	34	全域

[近 畿]

都道府県名	Vo	地 方
滋 賀	32	大津市 草津市 守山市 滋賀郡 栗太郡 伊香郡 高島郡
	34	彦根市 長浜市 近江八幡市 八日市市 野洲郡 甲賀郡 蒲生郡 神崎町 愛知郡 犬上郡 坂田郡 東浅井郡
京 都	32	全域
大 阪	32	高槻市 枚方市 八尾市 寝屋川市 大東市 柏原市 東大阪市 四條畷市 交野市 三島郡 南河内郡(太子町 河南町 千早赤阪村)
	34	大阪市 堺市 岸和田市 豊中市 池田市 吹田市 泉大津市 貝塚市 守口市 茨木市 泉佐野市 富田林市 河内長野市 松原市 和泉市 箕面市 羽曳野市 門真市 摂津市 高石市 藤井寺市 泉南市 大阪狭山市 阪南市 豊能郡 泉北郡 泉南郡 南河内郡(美原町)
兵 庫	30	下記以外の全域
	32	姫路市 相生市 豊岡市 龍野市 赤穂市 西脇市 加西市 篠山市 多可郡 飾磨郡 神崎郡 揖保郡 赤穂郡 宍粟郡 城崎郡 出石郡 美方郡 養父郡 朝来郡 氷上郡
	34	神戸市 尼崎市 明石市 西宮市 洲本市 芦屋市 伊丹市 加古川市 宝塚市 三木市 高砂市 川西市 小野市 三田市 川辺郡 美嚢郡 加東郡 加古郡 津名郡 三原郡
奈 良	32	奈良市 大和高田市 大和郡山市 天理市 橿原市 桜井市 御所市 生駒市 香芝市 添上郡 山辺郡 生駒郡 磯城郡 宇陀郡(大宇陀町 菟田野町 榛原町 室生村) 高市郡 北葛城郡
	34	五條市 吉野郡 宇陀郡(曾爾村 御杖村)
和 歌 山	34	全域

[中 国]

鳥 取	30	下記以外の全域
	32	鳥取市 岩美郡 八頭郡(郡家町 船岡町 八東町 若桜町)
島 根	30	下記以外の全域
	32	益田市 美濃郡(匹見町) 鹿足郡(日原町) 隠岐郡
	34	鹿足郡(津和野町 柿木村 六日市町)
岡 山	30	下記以外の全域
	32	岡山市 倉敷市 玉野市 笠岡市 備前市 和気郡(日生町) 邑久軍 児島郡 都窪郡 浅口郡
広 島	30	下記以外の全域
	32	広島市 竹原市 三原市 尾道市 福山市 東広島市 安芸郡(府中町) 佐伯郡(湯来町 吉和村) 山県郡(簡賀村) 賀茂郡(河内町) 豊田郡(本郷町) 御調郡(向島町) 沼隈郡
	34	呉市 因島市 大竹市 廿日市市 安芸郡(海田町 熊野町 坂町 江田島町 音戸町 倉橋町 下蒲刈町 浦刈町) 佐伯郡(大野町 佐伯町 宮島町 能美町 沖美町 大柿町) 賀茂郡(黒瀬町) 豊田郡(安芸津町 安浦町 川尻町 豊浜町 豊町 大崎町 東野町 木江町 瀬戸田町)
山 口	34	全域

[四 国]

徳 島	34	三好郡(三野町 三好町 池田町 山城町)
	36	徳島市 鳴門市 小松島市 阿南市 勝浦郡 名東郡 名西郡 那賀郡(那賀川町 羽ノ浦町) 板野郡 阿波郡 麻植郡 美馬郡 三好郡(井川町 三加茂町 東祖谷山村 西祖谷山村)
	38	那賀郡(鷺敷町 相生町 上那賀町 木沢村 木頭村) 海部郡
香 川	34	全域
愛 媛	34	全域
高 知	34	土佐郡(大川村 本川村) 吾川郡(池川町)
	36	宿毛市 長岡郡 土佐郡(鏡村 土佐山村 土佐町) 吾川郡(伊野町 吾川村 吾北村) 高岡郡(佐川町 越知町 檜原村 大野見村 東津野村 葉山村 仁淀村 日高村) 幡多郡(大正町 大月町 十和村 西土佐村 三原村)
	38	高知市 安芸市 南国市 土佐市 須崎市 中村市 土佐清水市 安芸郡(馬路村 芸西村) 香美郡 吾川郡(春野町) 高岡郡(中土佐町 窪川町) 幡多郡(佐賀町 大方町)
	40	室戸市 安芸郡(東洋町 奈半利町 田野町 安田町 北川村)

[九州]

都道府県名	Vo	地 方
福岡	32	山田市 甘木市 八女市 豊前市 小郡市 嘉穂郡(桂川町 稲築町 碓井町 嘉穂町) 朝倉郡 浮羽郡 三井郡 八女郡 田川郡(添田町 川崎町 大任町 赤村) 京都郡(犀川町) 築上郡
	34	上記以外の全域
佐賀	34	全域
長崎	34	下記以外の全域
	36	福江町 南松浦郡(富江町 玉之浦町 三井楽町 岐宿町 奈留町)
熊本	30	下記以外の全域
	32	山鹿市 菊池市 玉名郡(菊水町 三加和町 南関町) 鹿本郡 菊池郡 阿蘇郡(一の宮町 阿蘇町 産山村 波野村 蘇陽町 高森町 白水村 久木野村 長陽村 西原村)
	34	熊本市 八代市 人吉市 荒尾市 水俣市 玉名市 本渡市 牛深市 宇土市 宇土郡 下益城郡 玉名郡(岱明町 横島町 天水町 玉東町 長洲町) 上益城郡 八代郡 葦北郡 球磨郡 天草郡
大分	30	下記以外の全域
	32	大分市 別府市 中津市 日田市 佐伯市 臼杵市 津久見市 竹田市 豊後高田市 杵築市 宇佐市 西国東郡 東国東郡 速見郡 大分郡(野津原町 挾間町 庄内町) 北海部郡 南海部郡 大野郡 直入郡 下毛郡 宇佐郡
宮崎	32	西臼杵郡(高千穂町 日之影町) 東臼杵郡(北川町)
	34	延岡市 日向市 西都市 西諸県郡(須木村) 児湯郡 東臼杵郡(門川町 東郷町 南郷村 西郷村 北郷村 北方町 北浦町 諸塚村 椎葉村) 西臼杵郡(五ヶ瀬町)
	36	宮崎市 都城市 日南市 小林市 串間市 えびの市 宮崎郡 南那珂郡 北諸県郡 西諸県郡(高原町 野尻町) 東諸県郡
鹿児島	36	川内市 阿久根市 出水市 大口市 国分市 鹿児島郡(吉田町) 薩摩郡(樋脇町 入来町 東郷町 宮之城町 鶴田町 薩摩町 祁答院町) 出水郡 伊佐郡 姶良郡 曾於郡
	38	鹿児島市 鹿屋市 串木野市 垂水市 鹿児島郡(桜島町) 肝属郡(串良町 東串良町 高山町 吾平町 内之浦町 大根占町) 日置郡(市来町 東市来町 伊集院町 松元町 郡山町 日吉町 吹上町)
	40	枕崎市 指宿市 加世田市 西之表市 揖宿郡 川辺郡 日置郡(金峰町) 薩摩郡(里村 上甑村 下甑村 鹿島村) 肝属郡(根占町 田代町 佐多町)
	42	熊毛郡(中種子町 南種子町)
	44	鹿児島郡(三島村) 熊毛郡(上屋久町 屋久町)
	46	名瀬市 鹿児島郡(十島村) 大島郡

[沖縄]

沖縄	46	全域
----	----	----



NIPPON STEEL

日鉄鋼板株式会社

検索は <https://www.niscs.nipponsteel.com/>



本社・鋼板営業第一部 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目2番5号 日本橋本町二丁目ビル TEL 03-6848-3730 FAX 03-6848-3757
東北支店 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町三丁目6番1号 一番町平和ビル10F TEL 022-264-9861 FAX 022-264-9866
名古屋支店 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南二丁目13番18号 NSビル6F TEL 052-564-7258 FAX 052-564-4759
大阪支店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友ビル7F TEL 06-6228-8330 FAX 06-6228-8506
九州支店 〒812-0025 福岡県福岡市博多区店屋町5番18号 博多NSビル4F TEL 092-281-0051 FAX 092-281-0230
北陸営業所 〒930-0004 富山県富山市桜橋通り1番18号 北日本桜橋ビル4F TEL 076-432-9898 FAX 076-442-2924

●お問い合わせは・・・

※本資料に記載された技術情報は、弊社で実施した試験データ等の一例であり、その結果を保証するものではありません。
また、製品仕様等は、予告なく変更されることがあります。最新の情報については、弊社各担当部署にお問い合わせください。
※本資料に記載された内容の無断転載や複写は、ご遠慮ください。
※下記の名称は、日鉄鋼板株式会社の登録商標です。
「スチール・カバー工法®」「スライドイン工法®」

【2024年12月版】

©2024 NIPPON STEEL COATED SHEET CORPORATION. All Rights Reserved.

N.M 2025.01.1000